

【優秀賞】

流してしまった水が教えてくれたこと

仙台市立南吉成中学校

一年 岩田 零

夏休み前、歴史の授業で古代文明について習いました。エジプト文明をはじめとしたこれら四つの文明は、すべて大河のほとり、豊かな水のあるところに発生しました。定期的なナイル川の氾濫がエジプトに豊かな土をもたらし、多くの農作物の収穫を可能にしました。インダス文明では進んだ灌がいシステムが食料生産を支えていたそうです。このように、古代文明において水は人々の命と生活を支える、とても大切なものでした。

お盆休みに久しぶりに祖母の家に遊びに行きました。みんなで楽しく過ごした翌朝、「家の外の水道が開きっぱなしで、かなりの量の水が垂れ流しになっていた。」と、自宅にいる父から電話がありました。ぼくは真っ青になりました。一週間ほど前、大雨の日に野球部で練習をして、泥だらけになったユニフォームを家の外の水道で洗った記憶があったからです。ぼくは水道の栓を閉めるのをすっかり忘れて、洗い終わったユニフォームを持って家に入ってしまったのです。そしてそのまま一週間が経っていました。

一番はじめに頭に浮かんだのは、「これ、水道代いくらになるんだろう。きつとめちゃくちゃ高いよなあ。払えないような金額だったらどうしよう。」でした。これは蛇口を閉め忘れたばかりの責任だから、自分のスマホを売って払おうかなとも考えました。大切な資源である水と家族のお金を無駄遣いしてしまったことを、深く反省しました。

しばらくして、水道代はそこまで心配しなくても大丈夫そうだと分かりました。父が電話した水道局のコールセンターの人が、だいたいの水道料金の計算方法を教えてくれたからです。ぼくは少し安心したと同時に、

「水道料金って何のために払っているんだろう。」という疑問がわいてきました。一番大きい理由は、上下水道設備の維持管理費をまかなうためでしょう。もしかしたら、ぼくたちが払った水道代で古くなった水道管やダムも直しているのかもしれませんが。でも、水道料金を払う意味は本当にそれだけでしょうか。

今回の大失敗を通して、ぼくは水道料金がかかる理由には、水を大切に使うってほしいというメッセージも込められているのではないかと考えるようになりました。今回ぼくが一番反省したのは、水を「お金で買える商品」としてしか見ていなかったことです。今年、東日本は全域的に水不足で、多くの住む宮城県でもダムの貯水量が大幅に減少しています。農業用水も不足し、米の成長に影響が出るかもしれないというニュースも流れていて、古代文明が水の恵みに依存していたように、現代社会も水なしでは成り立たないのだなと思いました。今も昔も水がなければ食料は育たず、人が集まって暮らすこともできず、社会を作ることができないのです。

このように、水はぼくたちの生活を何重にも支えてくれています。でもぼくは今まで、いくらニュースで水がないとかダムの貯水率がゼロだと見聞きしても、「へえー、そうなんだ。大変だな。」としか思っていないませんでした。そんなことを言われてもぼくの家では蛇口をひねれば水がいくらでも出るので、どこか他人事ではなかったのだと思います。

水の大切さを考える時、ぼくたちは古代文明からも学ぶべきことがあると思います。それは水を有限なものとして、感謝しながら利用する姿勢です。古代の人々は、灌がいや貯水システムを工夫することで限られた水を最大限活用していました。そしてエジプトではナイル川の氾濫を神の恵みであるとし、祭りを行って水を讃えていました。水を資源として使うだけではなく、皆で水に感謝していたのです。水がなければ文明も未来もありません。ぼくは古代の人々の水に対する姿勢とこの夏の大失敗を忘れず、今後は水とともに生きる生活を大切にしていきたいと思っています。